

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2020年7月31日】第55号



新型コロナウイルス感染防止のために

ソーシャルディスタンス、手洗い、マスク……農大稲花小の1年生と2年生も、新型コロナウイルス感染防止のための様々な規則をしっかりと守ろうとしています。ソーシャルディスタンスを促す廊下のマークも、子どもたちがデザインしたものになりました。楽しい給食の時間も、食べている間はおしゃべりをしないことになっています。これは小さな子どもたちにとってはかなり大変なリクエストですが、先生方の指導もありだんだんに身につけているようです。ちょっと不憫にも思えますが、正しい習慣を身につけさせることは子どもたちを守ることでもあります。夏休みも近づき、ご家族でお出かけに機会も増えることでしょう。保護者の方々が率先して正しい行動を示し、子どもたちが身につけてきた正しい習慣が失われないようご協力をお願いいたします。



児童が作成したソーシャルディスタンスのマーク

大きなスイカは阿見町から

東京農業大学と包括連携協定を結んでいる茨城県阿見町のご厚意で、今年もまた阿見町特産大玉スイカが、農大稲花小学校の1年生に届きました。7月22日(水)、教室に届いたずっしりと大きなスイカには、一年生もびっくり。最近では小さいスイカしか見ないことが多いので、その大きさに驚きは格別だったことでしょう。そして、「かえりのかい」の時間に、子どもたちは楽しく甘いスイカを味わいました。

阿見町は、スイカだけでなく、ヤーコンという南米アンデス原産のイモや、メロン、レンコンなどでも有名です。いつもなら、東京農大の学生さんたちも、農業実習などでお世話になっており、卒業生も活躍しています。スイカを通して、阿見町についても知ることができた一年生でした。

米油を配布しました

昨年に引き続き今年もまた、ポーソー油脂株式会社様より、1年生には米油600gペットボトル、2年生には米油ミニボトルをご寄贈いただきました。1kgを超える玄米から、わずか14g(大さじ一杯)しかとれないのが米油だそうです。いろいろな食用油がある中、稲についてたくさん学ぶ農大稲花小の子どもたちに米油はうれしいプレゼントでした。ごはんだけではなく、稲からできるものが多様にあるということを知った子どもたちを囲んで、ご家庭でもお話が弾んだことでしょう。



食育ミニ講座～パッションフルーツ編～

7月29日(水)、東京農業大学志和地弘信教授が農大稲花小に来校されました。パッションフルーツを使った食育ミニ講座のためです。パッションフルーツは校友(東京農業大学の卒業生)で千葉県木更津市で大きなパッションフルーツ農家JBKファームを経営する地曳様から寄贈していただきました。

1年生を対象としたお話は、志和地教授が実際に訪問したアマゾンが原産地であることからスタートしました。パワーポイントを使いながら、アマゾン川の様子、クダモノトケイソウという思いがけない名前やその由来となった美しい花の画像が紹介していただき、子どもたちはすっかり惹きつけられている様子、リアクションも上々(?)でした。

職員室にも教室にも、パッションフルーツの香りが満ちた朝でした。おみやげに持ち帰ったパッションフルーツ、よく熟してから冷やして食べてくださいね。



パッションフルーツ



クダモノトケイソウ(和名)の花



かおりがよいフルーツ